

タウンミーティング

「すべての市民が、生き生きと暮らしていけるまちづくり」を目指して

施政方針に掲げた重点施策

☆生産年齢層の増加と子育て支援の充実
(移住・定住策の強化)

☆企業誘致

☆地域経済の活性化

☆財政の健全化・安定化

生産年齢層の増加が すべての施策に影響する

- ☆生産年齢層＝働き盛り世代＝子育て世代
- ☆生産年齢層＝最も消費が旺盛な世代
- ☆生産年齢層＝経済の中心的役割
- ☆生産年齢層＝未来を担う子どもの育成

人口減少社会において 生産年齢層の増加など可能なのか？

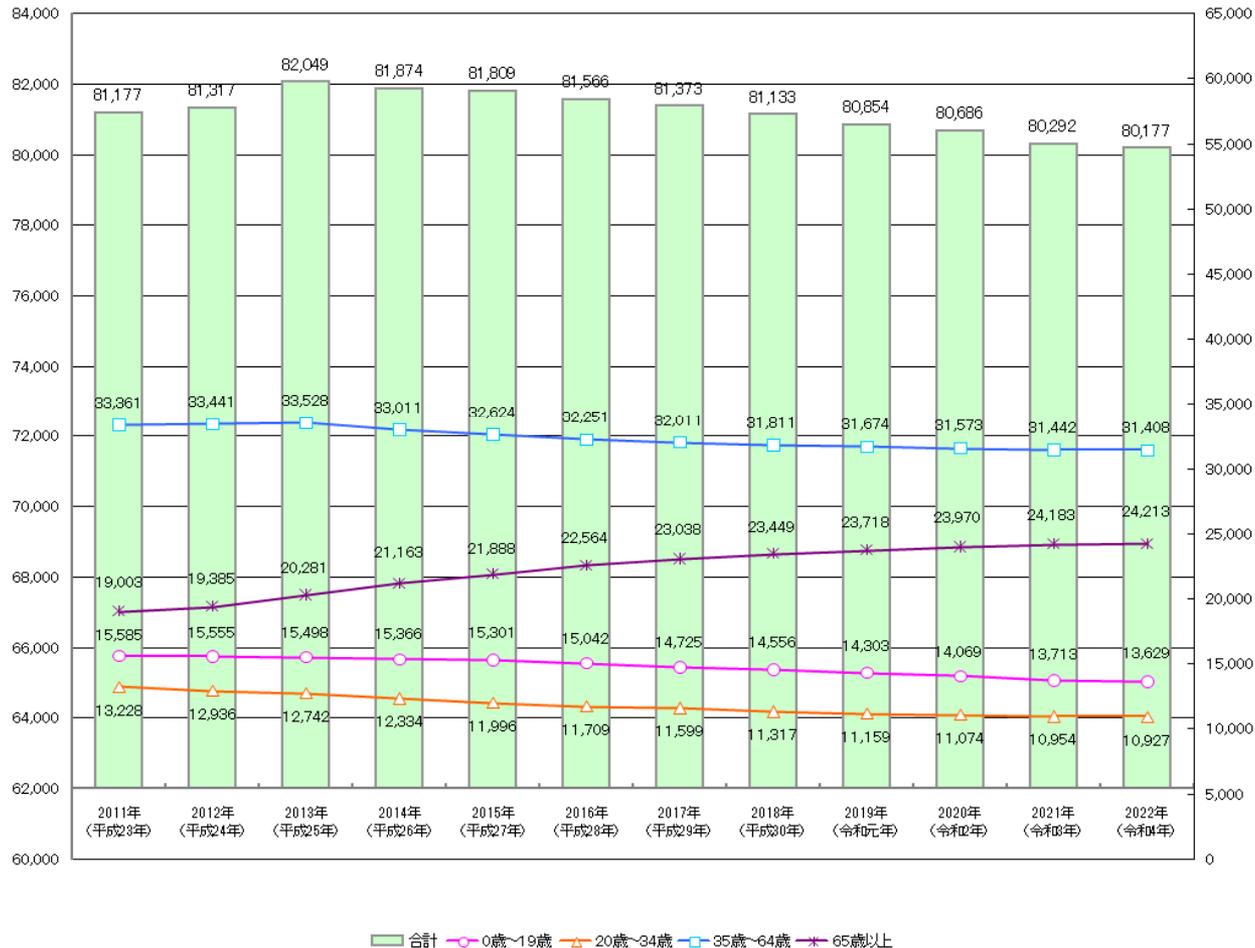
☆子育て世代が住みやすい環境がある

☆都会になくて、あきる野市にあるもの

その環境を活かしていけば可能です

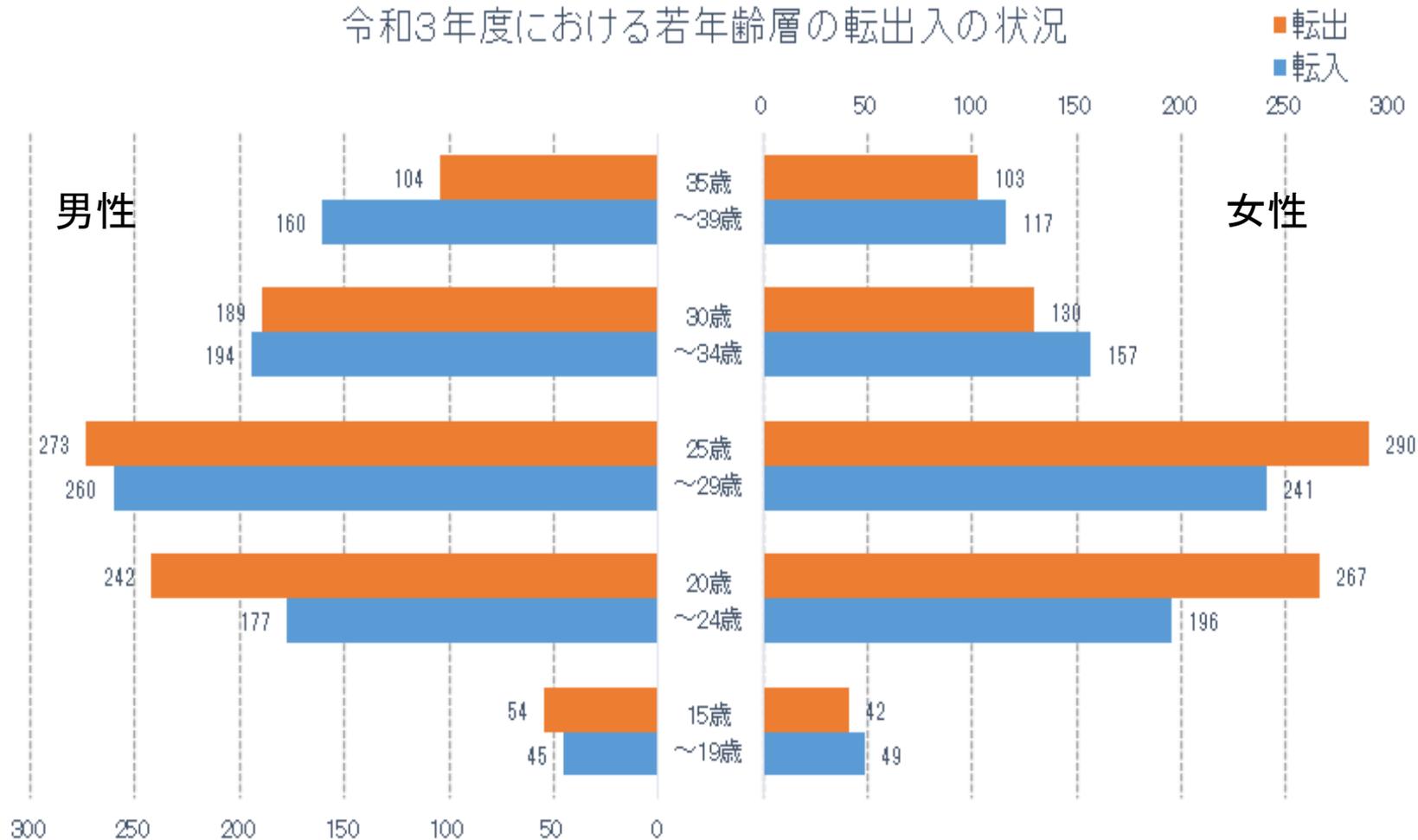
あきる野市の人口推移は

総人口及び年代別人口の推移(隔年4月1日現在)



あきる野市の 年代別の転出・転入数データ

令和3年度における若年齢層の転出入の状況



あきる野市の年代別動向

- 出生数が少ないため**減少** 0～18歳
- 社会人になり就職を機に市外へ移住し**減少**
18～20代
- 結婚し家庭をもち、帰ってくる(Uターン)
移住してきたり(Iターン)で**増加** 20代後半～40代

※トータルすると**減少**のほうが多いのが現状

得意なところに注力すれば減少状況を止められる

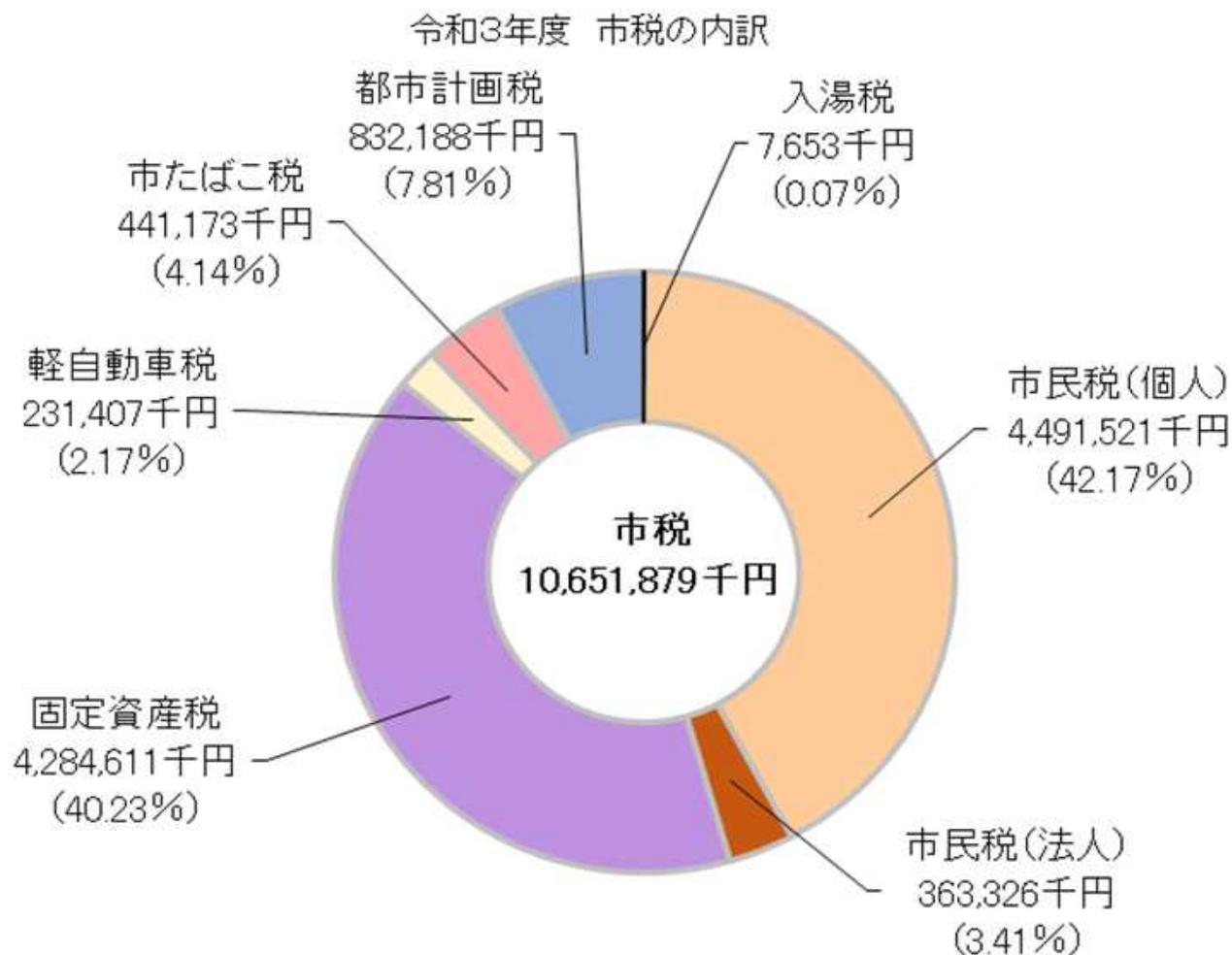
なぜ？30代など 子育て世代の転入が多い？

- ・自然環境が良いところで子育てがしたい
- ・あきる野市は買いやすい不動産価格
一戸建て率77%で都内26市のなかで
ダントツで1位！
- ・環境の良さと不動産価格とのコスパが良い

良いところを伸ばすことが得策

- 苦手なところを無理して頑張るより、得意なところを伸ばした方が成果を出しやすい
- 子育て世代が、さらに暮らしやすい環境を創造することが大事

財政安定化にも生産年齢層が重要



あきる野市の令和4年度決算 前年度（令和3年度）対比

- ・市税収入 約4.8億円増
- ・基金（家計に例えると貯金） 約5.3億円増
- ・起債（家計に例えると借金） 約11.5億円減

着実に起債を償還しながら基金も積み増しています

移住定住策に追い風あり

- パンデミックがリモート化など働き方の変化速度を加速させた
- 仕事に対するワカモノの遣り甲斐、人生観も多様化
- 教育も多様化 勉強以外に体験や感性を育むことも重視
- 良い自然環境下での子育て願望が増加
- 移住・定住のニーズは確実に高まっている

生産年齢層の増加に重要なこと

- ・移住定住策の強化
住みやすさの充実・PR・受け入れ態勢が重要



移住定住担当を配置

- ・住まいの提供
(空き家対策が移住結果だけでなく、自治機能の維持に大きく影響する)
- ・子育て環境の充実

ゴトスム
KOTOSUM

東京あきる野 移住情報ガイドブック

子と住むトカイナカ

あきる野市ってどんなところ？
～都心に近く自然を身近に感じるマナ～
移住のことは相談員に聞いてみよう
移住で叶う理想のライフスタイル







Yozawa
Akiya
Taisaku

里くら養沢たより

改修費かかる物件にも借り手 低家賃、自ら直す条件で

養沢活性化委員会空き家対策部会では、空き家の持ち主と借りたい人を仲介し、空き家活用を進めています。このチラシでマッチングが成立した事例を紹介します。



長年放置、壁に穴を
あけず住居に利用でき
ていません。



家主の森屋さんのコメント

空き家部会の方には、内覧から入居者の意向の確認、契約までお手伝いになってくれていたのが助かりました。古い建物ですが、鈴木さんに借りていただき、ありがとうございます。




借り手の鈴木さん

今回の物件は、人が住まなくなって15年ほど経った平屋。傷みが激しく、活用するには高額な改修費がネックになっていました。「安い家賃で提供する代わりに借主が自分で修繕する」という条件で、現状のまま賃貸契約が成立しました。

事の始まりは、家主の森屋さんが、養沢活性化委員会空き家部会が郵送したアンケートを見て部会長の内山正美さ

んに連絡したことでした。

この建物は森屋さんの生まれ家で、森屋さんが増元を離れた後も想いが蓄らしていましたが、この15年ほどは空き家になっていました。市街化調整区域の土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）に当たるため建て替えが難しい物件。複数の工務店に見積もりを依頼したところ1000万円以上かかることがわかり、どうしたものかと考えあぐねっていたそ

武蔵五日市駅前計画

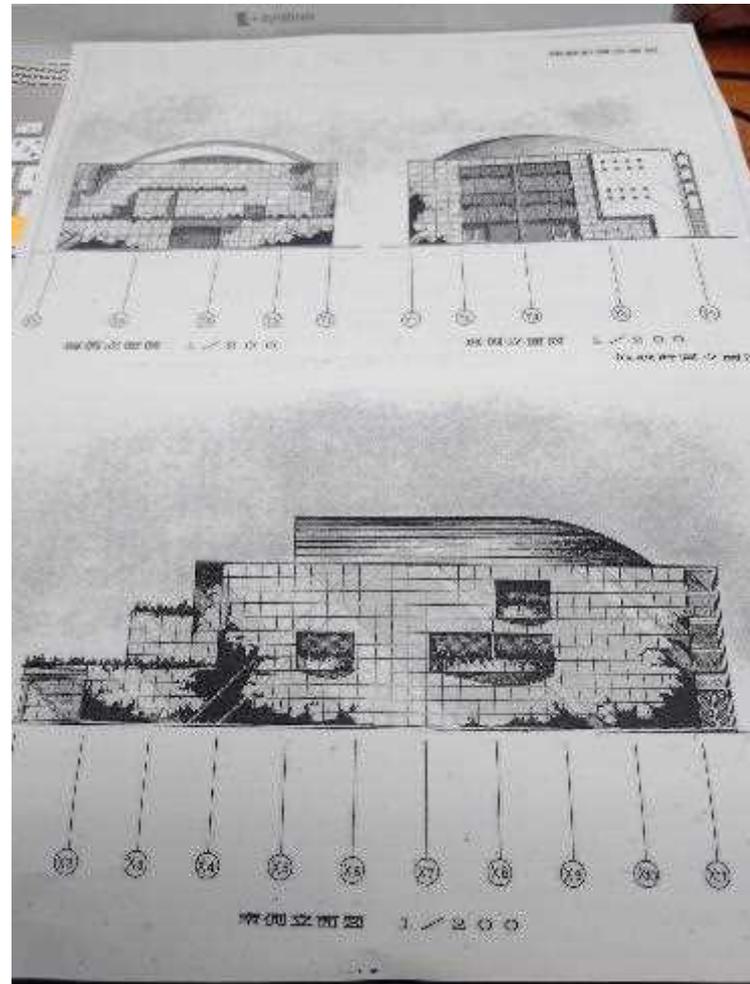
- 駅舎建て替え及び駅前整備をする際に、観光や地域活性化のための「地域総合センター」を建設するために確保した土地
- その用途のために都から13億円の補助金を得て用地買収をしており、現在は目的外利用状況となっている

現在、暫定的に駐車場として利用しており
バス車庫と駐車場しかない駅前

武蔵五日市駅前計画



武蔵五日市駅前計画



なぜ？計画が実施されなかったか

- 駅前整備が完成する直前にバブル経済崩壊という経済危機に陥り、行政も民間も計画が頓挫した
- その後、計画実施のための調査研究を行いながらも現在に至る

ずっとこの課題にも向き合い 調査研究も重ねてきた

- 様々な団体や地域内外のワカモノ達と多くの街づくり勉強会やイベントの開催など活動を通じて地域の状況、地域の人材、変わりゆく観光やビジネスの様子を地域に密着し調査研究を積み重ねてきた

商店街にシャッター店が多いと 感じるかもしれませんが

- シャッター店はその家の事情で貸すことができない
のであり、起業したい人はたくさんいる
- 数年前まで五日市駅前にあった空き店舗は現在
一件もない
この5年間に五日市地区内で44事業者が起業した
- タウンマネージャーの功績は大きい
- 多くのコミュニティ活動も誕生している

いままでの市の取り組みと いままでの経緯と 現在の状況を見て政治判断

- これらを鑑みて駅前事業を実行する決意をし市長選での公約にも掲げた
- 当選後、政治判断し施政方針にも事業着手を掲げ、パブリックコメント等も経て現在に至る
- 事業規模 建物 当時予算の約10分の1
土地面積 当時計画の約3分の1

駅前事業規模のイメージ



秋川流域の観光玄関口として ふさわしい駅前に！

- ・体験学習・観光が日常的に盛んに行われること
- ・イベントや研修も頻繁に行われること
- ・それらが地域経済に波及すること
- ・それらを支える人材と起業人の育成ができること
- ・市民も観光客もくつろげるスペース

活力と想像力を満たす学習の場 みんなのwell-beingのために

- 秋川流域の玄関口として、秋川流域の観光・教育・体験の場としての情報発信の場、ハブ的役割を担う拠点に
- 情報と多種多様のコンテンツを発信し市内外から日常的に集客し、各地域での活動場所、ビジネス拠点へと人流を促す
- 緑地や休憩できるスペースも設け、公園的かつイベント利用もできる駅前での憩いの場に

なぜ？体験や学習？

- 物販、飲食、宿泊などは秋川流域全体で民間事業者が営んでおり、この玄関口で行政がそれらを行うべきではない
- 現在、個性的な人材が創出されてきており、様々な体験やイベントなど特徴のあるコミュニティ活動が各地域で展開され、それらの人流が地域の様々な事業へのビジネスへと繋がっている
- 行政の役割は、地域の魅力を伝え集客・流動化を促すこと
- 体験や学習を通じて、人材の育成する

私が思う地域活性化の定義

- ・地域で活躍する若人が常に存在し
それらを地域があたたかく見守り、支援し
そのような環境を継続し維持していくことができ
新たな人材が常に育成されていくこと